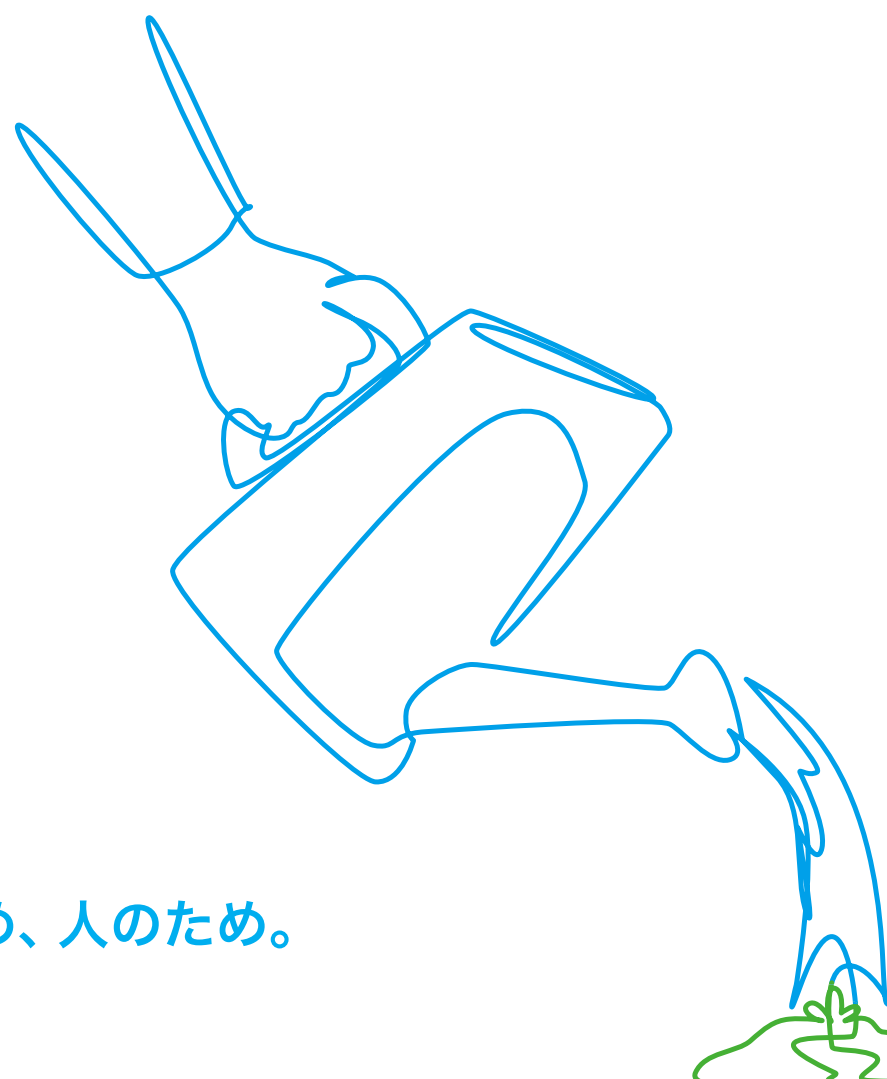




化学は世のため、人のため。

Sustainability Report 2023

シーシーアイグループ サステナビリティレポート

シーシーアイホールディングス株式会社
社長室 サステナビリティ推進グループ
岐阜県岐阜市橋本町2丁目20番地 濃飛ビル12階
<https://cci-corporation.com/>

Sustainability Report 2023

化学は世のため、人のため。

安心・安全・快適なモビリティ社会を実現したい。
落ち着いた暮らせる、静かな住環境を提供したい。
人々の健康で豊かな生活を支えたい。
環境に優しいモノづくりを突き詰めたい。

私たちシーシーアイグループは、
長年にわたり培ってきた化学の力を活用し、
豊かな社会と持続可能な地球環境の実現に貢献してまいります。

「新しい」を共創し、世界に安心・安全・快適を提供します

Change Create Innovate
変革への挑戦 お客様目線で創意工夫 全員で経営革新

経営基本方針

「CHANGE」競争力を維持・向上させるため、
時代に合わせ、ビジネスモデルを変え、働き方を変える。

- 対象期間
2022年4月～2023年3月
- 対象範囲
シーシーアイホールディングス(株)、シーシーアイ(株)およびシーシーアイグループ(国内・海外)
※本文中の「シーシーアイ」はシーシーアイホールディングス(株)およびシーシーアイ(株)の総称。「シーシーアイグループ」はシーシーアイおよび国内、海外の子会社の総称。
- 参考としたガイドライン
GRIスタンダード(GRI)、ISO26000
- 発行時期
2023年7月(毎年7月発行予定)
- 担当部署・問い合わせ先
シーシーアイホールディングス(株) 社長室 サステナビリティ推進グループ

Contents

目次・編集方針	02
トップメッセージ	03
シーシーアイグループについて	05
価値創造ストーリー	07
サステナビリティの取り組み	10
ESG活動報告ハイライト	12
環境	13
社会	14
ガバナンス	15

■免責事項
本レポートには、シーシーアイおよび対象範囲となる会社の過去と現在の実事だけでなく、発行日時点における計画や経営方針、戦略に基づいた将来予想が含まれています。この将来予想は、記述した時点で入手できた情報に基づいた仮定ないし判断であり、諸与件の変化によって将来の事業活動の結果等、予想とは異なったものになる可能性があります。皆様には、以上をご理解いただきますようお願いします。

■編集方針
シーシーアイグループは、すべてのステークホルダーの皆様当社グループのサステナビリティに関する考え方や取り組みをお知らせするために、本レポートを Web で発行しています。E（環境）・S（社会）・G（ガバナンス）に対する事業活動を通した取り組みに加えて、企業価値の向上を目指す目標も掲載しています。当社では、今後もサステナビリティ経営の推進に努め、継続して情報を開示してまいります。皆様からのご意見・ご感想をお寄せいただければ幸いです。





代表取締役社長/CEO

岡部 鉄也

Top Message

自らのパーパスを見直し、
新たな企業価値を次世代に継承することで
お客様、地域・社会、そして社員に
愛される企業を目指します。

高度な品質管理、安心・安全、モノづくりの考え方を強みとして

初めに、私たちシーシーアイの事業の特色と取り巻く環境について、ご説明させていただきます。当社は、長年の自動車メーカーとの取引で培った高度な品質管理、安心・安全、モノづくりの考え方を強みとして成長してきました。また、住宅メーカーとの取引では、快適性の追求においても高い優位性を有しています。これらのメーカーの販売チャネルもしっかり確保し、例えば自動車メーカーにクーラントやブレーキフルードを納入する際、カーケア用品なども同じチャネルを活用することで、効率化を図っています。商品面では、高度な品質管理に加え、コストダウン、改善能力にも高い優位性を有しています。私たちは、これらの強みを活かしながら、お客様にしっかり価値を見ていただく顧客第一（Customer Focus）を貫き、商品第一主義による事業を展開しています。

私たちを取り巻く経営環境は、100年に一度と言われる自動車業界の大変革のただ中にあり、CASE[※]時代の到来に向けて、さまざまな対応を迫られています。電動車両（EV）への対応も早くから強化しており、エンジンもガソリン車からEVへと変化していく中であっても、当社製品のクーラントは必要とされ、特性は変わっても自動車メーカーとの取引は継続していきます。また、EV開発で先行する

※CASE:「Connected（コネクテッド）」「Automated/Autonomous（自動化）」「Shared（シェアリング）」
「Electric（電動化）」

欧米メーカーとの取引で培った技術を国内に展開するなど、今後、EVに参入する他業種との取引も視野に、ビジネスチャンスの拡大に努めています。

現在、世界で拡大する環境問題により、製品の原材料も化石由来からバイオ由来への転換が求められていますが、これは私たちにとって逆にチャンスになると捉えています。当社ではバイオ由来の原料探索やリサイクルに早くから取り組むなど、スピード感を持って臨んでいます。大切なことは、このスピード感であり、これが競争力を生み出します。何が競争力かをつねに念頭に置き、品質、コスト競争力等、どこに付加価値をつけるかを追求し続けることが重要です。だからこそ、他に先駆けて取り組み、その結果として企業価値を高めて、社員の成長を促すことが可能になります。こうした考え方、行動力を次世代につなぐ風土にしたいと考えています。

目標を明確にし、 スピード感を持って取り組むサステナビリティ経営

私たちは、目指すべき社会（2050年）の実現に向け、ESG重視の経営を精力的に進めています。2022年度は、投資委員会、コンプライアンス・リスク委員会、情報セキュリティ委員会で構成されるサステナビリティ推進委員会のもと、環境、人権などに関するKPI※に基づき、着実に取り組みが進んだと評価しています。事業部・部のKPIと連動し個人にもKPIを設定し、目標を明確にすることで各自が自己評価できる仕組みを整備しています。私は、この取り組みにおいてもスピード感が重要であるとの認識のもと、早くやることに徹することで価値向上につなげ、これを社内外にアピールしなければならないと考えています。サステナビリティも企業価値のひとつですが、当社の若い社員の意識も高く、しっかり浸透していると実感しています。

環境面では、CO₂削減エネルギー対策プロジェクトのもと、それぞれの課題にひとつずつ取り組んでいます。廃棄物の削減や、代替原料の探索に加え、歩留まり率の向上にも取り組んでいます。技術、研究開発、製造工程におけるCO₂排出量の削減などカーボンニュートラルの実現に向けた体制を整備し、PETシュリンクフィルムの回収などサーキュラーエコノミーへの移行も段階的に進めています。更には、環境に優しい持続可能な製品開発としてBEV・FCV用製品、省エネ・長寿命ウレタンなどの開発を進めています。

社会貢献では、地域貢献として、サッカーチームFC岐阜や地元の11歳以下のサッカーチームのスポンサーに加え、名古屋大学、岐阜大学への研究助成を行っています。また、TOYOTA GAZOO Racingの支援を通して、モータースポーツの

振興にも注力しています。

DXの推進では、グループ全体の生産工程管理の標準化を目的とした基幹システム（ERP）の刷新に着手しました。全世界で統一された基準を取り入れることで、いつでも、どこでも、同じ品質のモノづくりの実現を目指します。同時に、これまで国内で成果を上げてきたRPAを海外拠点にも展開し、社員がより付加価値の高い仕事に集中できる環境づくりにも積極的に取り組んでいく計画です。

最後にガバナンス強化では、シーシーアイでは全従業員を対象としたコンプライアンス教育を毎月実施し、不正行為の防止など、従業員のコンプライアンス意識の啓発に努めています。また、リスクマネジメントにおいては、昨今のサイバー被害の拡大を受け、現在、業界団体の指針に基づいた情報セキュリティ対策を段階的に進めており、グループの情報セキュリティ強化に取り組んでいます。

「企業理念探究プロジェクト」を通して、 企業理念を見直し、次世代人材を育成

当社では2022年度より、「企業理念探究プロジェクト」を立ち上げ、あらためて企業理念を見直し、新たな行動指針の策定を進めています。これは、企業価値とは何かを探究し、パーパス（存在意義）を見つめ直そうという試みです。社会経済が大きく変化する中で、仮に私たちの業態が変わったとしても、その変わらぬ存在意義とは何かを追求するものです。トップダウンではなく、社内の20代後半から40代前半の選抜メンバーが主体となって、会社の根幹となる企業理念を再構築し、これから先30年、50年、語り継がれる新しい価値を見つけ、言語化し、「理念の伝道師」となって浸透を図る取り組みでもあります。このプロジェクトを通して、社会、企業、組織にある課題や問題点を探り、新たな価値観に基づいて自ら行動に移すことができる、将来のシーシーアイを担う人材へと成長を目指します。

私自身としては、次世代の社員の意見を聞きたかったという想いもありました。これまでトップダウン型の傾向があり、自分たちの想いを言えなかったのではないかという考えもあって、この試みを始めました。これら若い世代の人たちが、これからの会社を背負っていくのだということを理解してもらいたかったのです。今後、5年、10年を経て、現在の試みを体現し、歴史を学んで更に新しい世代の人たちに伝えること、これが伝道師です。現場でやるべきこと、やりたいこと、何が目的かをしっかりと考えてもらいたい、そして自分たちで決めたことを確実に実行することが重要です。プロジェクトを開始して以来、私自身、メンバーが目に見えて成長していると実感しています。戦略のことを自分たちで考えるようになり、経営視点でものを考えるようになったという手応えを感じています。更に重要な



のは、決めたことを実行できるかということ。そして、それを新しい世代に伝えていくことです。そのために、また新しいプロジェクトを立ち上げようと考えています。

新たな世代とともに、企業の持続的発展を目指す

実は、私はこの「企業理念探究プロジェクト」で決めたことが、いずれ変化してもかまわないと考えています。どんなに追求しても100点満点はなく、本来、理念を決めることが目的ではないからです。目的を明確にした上で、企業の持続的発展を目指すことこそが大切だと考えています。私たちは、こうした取り組みを続けることで、ありがたい姿として、社員やその家族の皆さんが誇りにできる、そして地域や社会から愛される会社となり、ともに成長したいと考えています。ステークホルダーの皆様には、私たちの活動にご理解をいただき、ぜひ、ご期待いただきたいと思います。

代表取締役社長/CEO

岡部 鉄也

シーシーアイグループについて

私たちは、顧客第一（Customer Focus）の研究・開発を積み重ね、グローバルにビジネスを展開しています。

■会社概要

シーシーアイホールディングス株式会社

本社所在地 岐阜県岐阜市橋本町2丁目20番地
濃飛ビル12階

創立年月日 2013年(平成25年) 4月1日

振込済資本金 1,000万円

事業内容 グループ会社の経営管理および付帯業務、
不動産の賃貸・管理、基礎研究

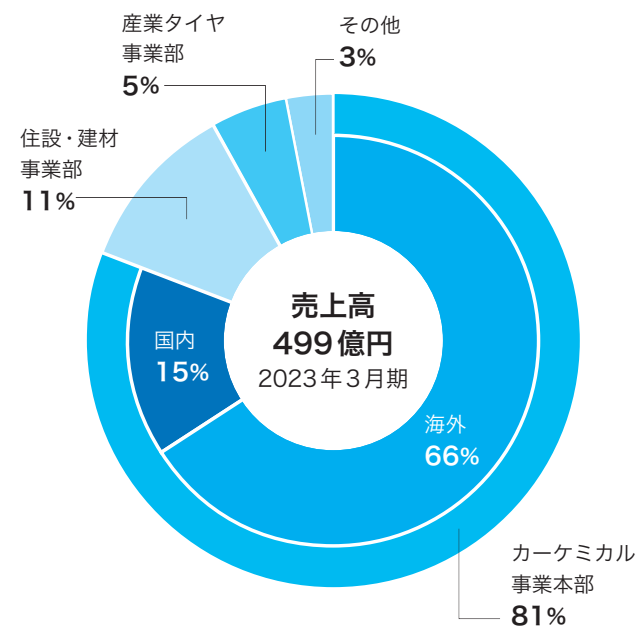
シーシーアイ株式会社

本社所在地 岐阜県関市新迫間12番地

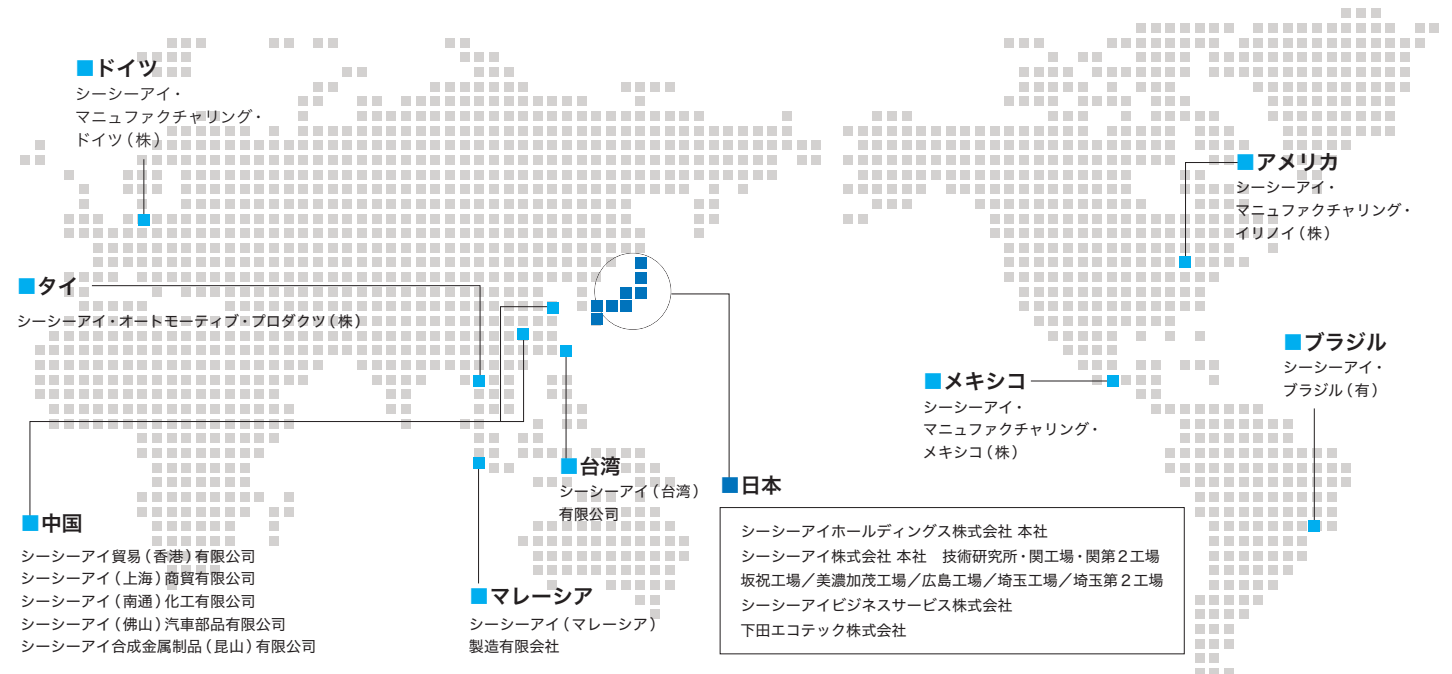
創立年月日 1949年(昭和24年) 5月31日

振込済資本金 12億6,000万円

事業内容 カーケミカル、カーケア用品、樹脂・ゴム製品、
防音材・制振材等の開発・製造・販売



■グローバルネットワーク（海外8か国12社・国内8拠点4社）



■事業内容

カーケミカル事業本部

各自動車メーカーのOEMメーカーとして、主にエンジンクーラント、ブレーキフルードを供給しており、安心・安全をお客様に提供しています。世界中の自動車メーカーにご使用いただけるよう製造、供給体制を確立しています。またカーケア用品も取り扱っており、快適なカーライフを実現すべく自動車ディーラー・専門店向けのプロ用から誰でもカンタンに施工できる製品を提供していきます。

主な製品・研究テーマ

- エンジンクーラント
- ブレーキフルード
- ウィンドウォッシャー液
- 温水床暖房用不凍液
- ボディコーティング剤
- ガラスコーティング剤



住設・建材事業部

音・振動エネルギーを吸収できる素材、遮音材と塩ビ管を一体化した防音排水管などを取り扱っています。戸建て住宅からアパート・マンションまで様々な分野のお客様へのご提供が可能です。お客様の住環境の改善に加え、現場施工の手間や時間の短縮につながる製品のご提案も積極的に行っています。また油脂を分解する微生物製剤も取り扱っています。

主な製品・研究テーマ

- 防音排水管
- 防火区画貫通部材
- 制振シート・制振塗料
- 油脂分解微生物製剤



産業タイヤ事業部

熱硬化性ウレタンの中でも注型ウレタンをホイールに接着したウレタン車輪を主に取り扱っています。安心・安全な走行に必要な不可欠なウレタンの接着性は他に負けないアドバンテージを持っており、マテハン機器や遊戯機器に多く使用されています。環境に優しい(抗菌性・導電性など)ウレタン車輪も品揃えし、設計段階からご要望をお伺いし、小ロットから対応いたします。

主な製品・研究テーマ

- 産業用ウレタン車輪
- ソリッドタイヤ



研究開発部

事業本部、事業部製品の戦略推進の支援、基礎研究や生物が持つ多様な機能を人々の暮らしに役立てるための研究開発を行っています。これまでに生活の質を向上させ健康に貢献できるサプリメントの開発や、水・土壌の汚染を浄化することで地球環境の保全につながる研究開発に取り組んできました。研究分野に縛りががないため幅広い分野へ挑戦でき、また大学との共同研究も行い日々新たな可能性を追求しています。

主な製品・研究テーマ

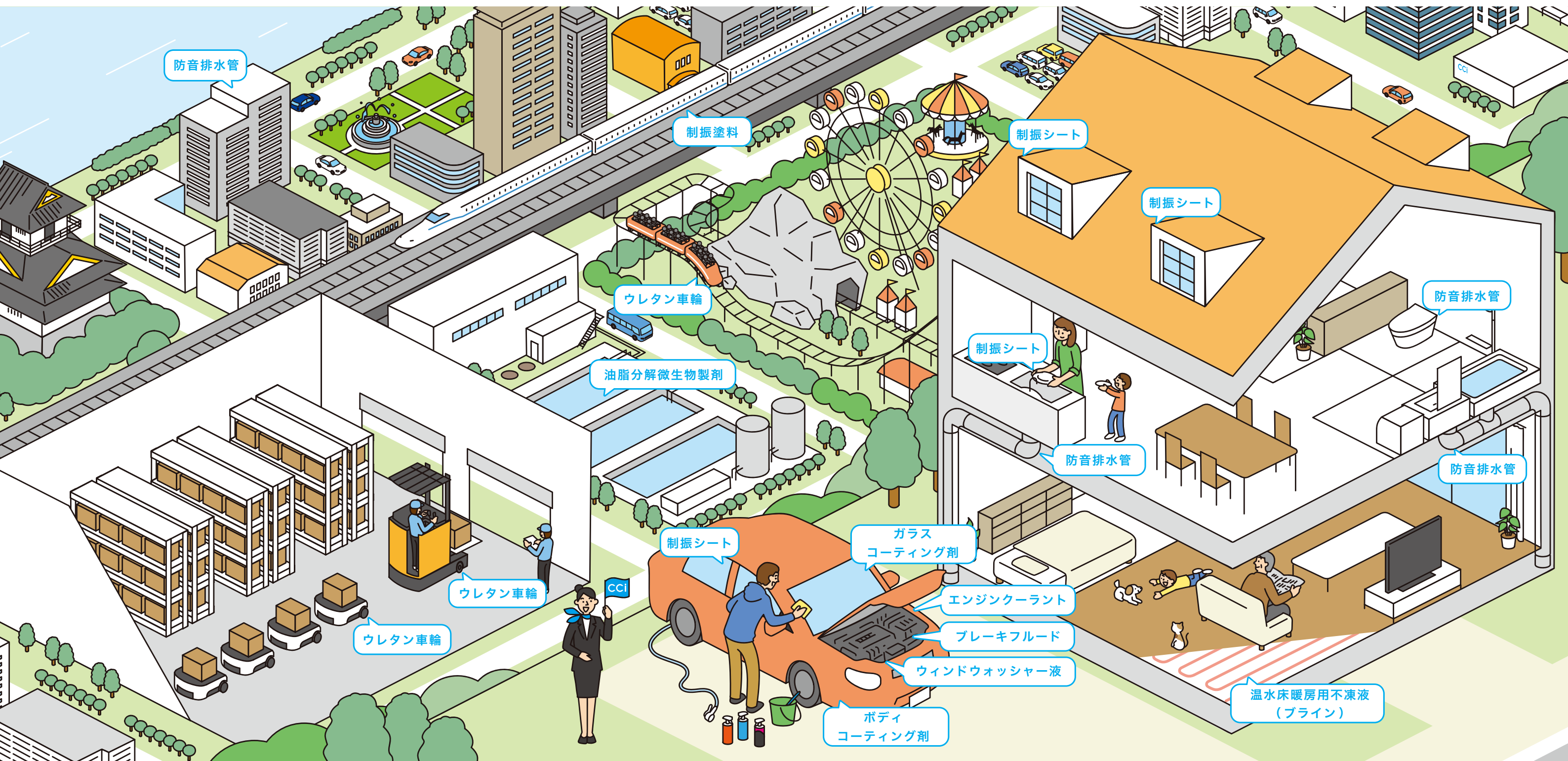
- 油脂分解微生物
- 植物エキス
- 機能性材料



シーシーアイグループについて

暮らしをささえるシーシーアイ製品

私たちの製品は、私たちの暮らしの様々な場面で活用されています。身近な生活環境の場面より一例を紹介します。



価値創造ストーリー

価値創造の歴史

1949年にブレーキオイルメーカーとして創業して以来、幅広い分野に事業領域を拡大し、様々な変革を成し遂げてきました。私たちはこれからも、安心・安全・快適を提供し続け、次のステージに踏み出します。

国内売上高 海外売上高

NEXT
STAGE

カーケミカル
1949年

産業タイヤ
1970年

カーケア用品
1977年

海外進出
1980年

住設・建材
1992年

1949



1949年5月
中央化学工業株式会社 創立

ブレーキオイル
メーカーとして誕生/創業

悲しい事故を無くしたいという思いから、「不撓不屈」の精神でブレーキオイルを開発



1970

ゴム事業
(現 産業タイヤ事業)に進出

新たな事業の柱を育てるため、新分野である産業用ウレタンゴム車輪を開発



1980~1990

海外進出

世界品質の技術を糧に、時代の流れを先読みし、大きな市場を目指し米国に現地法人を設立。その後、台湾、英国、タイに現地法人（または支店）を設立



1980年12月
米国現地法人 設立



1981年9月
台湾現地法人 設立

2000~

グローバル供給体制の強化

更に世界中で製品を供給できる体制を広げるために、中国（5拠点）、メキシコ、ブラジル、ドイツに現地法人、マレーシアに合弁会社を設立



2005年5月
中国広東省佛山現地法人 設立



2017年7月
ドイツ現地法人 設立

1977

カーケア用品事業に進出

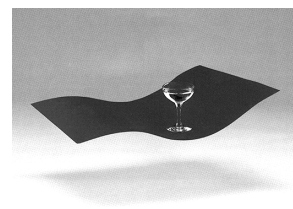
これまで培ってきたカーケミカルのブランド技術を活かして、車が庶民の足となった時代背景の中、一般ユーザー向けのカーケア用品事業に進出（現カーケミカル事業に統合）



1992

制振事業
(現 住設・建材事業)に進出

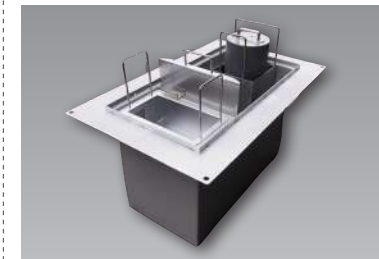
制振、吸音・遮音などカーケミカルで培った技術を、安全で快適な住環境づくりに展開



2007~

環境配慮型製品の開発

今まで培ってきた技術を活用し、環境に配慮した製品を開発、販売



2007年6月
下田エコテック（株）を子会社化し、グリーストラップ（油脂分離阻集器）の設計・製造・販売を開始



2018年
オイルバニッシュ（油脂分解微生物製剤）の開発、販売を開始

価値創造ストーリー

価値創造プロセス

これまで培ってきた技術的成果を活用し、人々の豊かな暮らしに貢献する新たな価値を創造し続けます。

インプット

事業活動

アウトプット

アウトカム

外部環境

- ・モビリティ業界の変革
- ・気候変動
- ・DXによるビジネス環境の変化
- ・物売りからコト消費へ
- ・顧客ニーズの多様化
- ・少子高齢化

「新しい」を共創し、世界に安心・安全・快適を提供します

Change Create Innovate

変革への挑戦 お客様目線で創意工夫 全員で経営革新

CCI

シーシーアイグループの強み

ビジネスプロセス

販売

製造

調達

企画

研究開発

市場調査

グローバル供給体制

安心・安全・快適の提供

Change Create Innovate

コーポレート・ガバナンス、
リスクマネジメント、コンプライアンス

社会課題へのアプローチ



カーケミカル事業本部

- 次世代モビリティ製品の開発
- 環境配慮型製品の開発
- カーシェアを見越した清掃・手入れの簡略化



住設・建材事業部

- 静かな住環境の提供
- 現場施工効率化
- モビリティ領域へ静音技術の展開



産業タイヤ事業部

- 環境配慮型製品供給
 - 抗菌性、耐久性、導電性、静音、省エネルギー
 - 長寿命化
 - ホイールリユース(巻き直し)



研究開発部

- 新たな技術を駆使した環境配慮型製品、サービスの提供



コーポレート部門

- どこでも働けるシステム・環境の構築
- 従業員エンゲージメントの向上

ESG 優先課題 (2030 年目標)



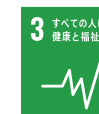
12 つくる責任
つかう責任

自社製品の
循環型社会の構築
脱石油由来原料への代替



9 産業と技術革新の
基盤をつくらう

調達・現場施工・取り壊し
までの廃棄物の削減



3 すべての人に
健康と福祉を

環境負荷物質の
使用量削減



13 気候変動に
具体的な対策を

低CO₂製品製造の実現
(エネルギーマネジメント)



8 働きがいも
経済成長も

多様な働き方の推進

目指すべき社会
(2050 年)

人々の豊かな暮らしの実現

- 【社会】
- 安心・安全・快適なモビリティ環境の提供
 - 静かな空間の創造
 - 健康、生活の質向上

- 【職場】
- 多様な働き方の実現



世の中にない新たな価値の創造

- 新製品、サービスの創出



持続可能な社会への貢献

- カーボンニュートラルの実現
- サーキュラーエコノミーへの移行



シーシーアイ(株) 本社 技術研究所

※数値は2023年3月末時点
技術・研究員、取得特許件数
(シーシーアイ)

価値創造ストーリー

事業部の取り組み

事業本部、各事業部におけるサステナビリティ経営の実現に向けた取り組みを紹介します。

カーケミカル事業本部



常務取締役 カーケミカル事業本部 本部長
大澤 久吉

業界に先駆けた製品開発によって 環境問題の解決に貢献

当本部は、エンジンクーラント、ブレーキフルードに関する数多くのノウハウの蓄積と、海外のR&D拠点を含めた研究開発体制により、お客様ニーズに沿った製品開発を推進しています。また、各製品は、ITを活用した厳しい管理体制のもとで高い品質を維持しています。現在、カーボンニュートラル（CN）の環境配慮の機運が高まる中、新たなエネルギーや技術に対応した製品開発が求められています。当本部も、自動車のEV化が進展する中、業界に先駆けた製品開発によって環境問題の解決に貢献したいと考えています。また、ESG施策においては、BEV、FCV用製品の開発、サーキュラーエコノミーに資する長寿命製品の開発やリサイクルに取り組むとともに、CSR調達も積極的に推進しています。更に、喫緊の課題であるCO₂排出量削減の取り組みにおいても、製造工程、製品の原点から見直し、環境配慮型製品で社会に貢献していく考えです。

産業タイヤ事業部



ESG施策を重視し、時代に求められる 製品・サービスを提供

当部は、高品質なウレタンタイヤの重要な要素であるウレタンと芯金の接着技術に高い優位性を有しています。ウレタンタイヤが使用される環境が多様化するに伴い、耐久性に関する要求も厳しくなり、当社では耐久性向上を図るため、ウレタンと接着に関する研究・開発を他社に先駆けて取り組んできました。2022年度に策定した事業部別戦略では、ESG施策の推進を重視し、環境負荷物質削減の取り組みに加え、CO₂排出量削減においては設備、工程改善によって着実に進展させるとともに、生産性向上も実現しています。また、紙、梱包材、原料などの廃棄物の削減とともに、不良率の削減にも注力しています。お客様に対しては、ウレタン巻き直しによる金属製品の再利用を提案するなど、環境配慮型製品・サービスの開発も強化しています。今後も、時代に求められる高品質な製品・サービスの提供によって信頼される企業を目指していきます。



執行役員 産業タイヤ事業部長
村瀬 博宣

住設・建材事業部



執行役員 住設・建材事業部長
酒向 宏和

安心・安全かつ環境にも配慮した製品・サービスをお届けし、 豊かな住環境づくりに貢献

当部は、住宅向け防音排水管を提供し、静かで快適な住環境の提供、現場施工の効率化に加え、コスト低減、時間短縮に貢献する製品開発に努めています。今後、少子高齢化で市場が縮小する中でも、高品質の維持や、付加価値の高い周辺製品、設計加工サービスなどを提供することで成長を目指します。ESG施策においては、工場の稼働精度の向上に努め、廃棄物の削減に注力するとともに、製造工程で発生するPETシュリンクフィルム破砕物の回収、再利用をメーカーと共同で取り組み、資源循環型のビジネス構築に取り組んでいます。重要課題であるCO₂排出量削減においては、生産性の向上、製造ラインの効率化を図ることで、着実に推進するとともに、省エネも実現しています。今後も、お客様の困り事に寄り添いながら、次世代事業の柱の確立に努め、予測の難しい環境にあっても、安心・安全で、環境にも配慮した高品質な製品・サービスをお届けしていきます。

研究開発部



次世代の事業開発と環境配慮型製品の開発、 脱炭素をテーマとした研究を推進

研究開発部は、次世代を担う新たな事業開発と各事業の戦略推進の支援を行っています。加えて、環境配慮型製品の開発、脱炭素をテーマとした研究も推進しており、石油化学製品の代替としてバイオ由来の製品開発にも取り組み、2030年の商品化を目指しています。また、大学との共同研究に加え、若手研究者や学生を支援したいとの想いから、2021年度より「研究助成プログラム」を開始しました。幅広い視野で研究テーマを選定し、研究活動を支援するもので、2022年度は名古屋大学、岐阜大学で7件のプログラムを実施しています。ESG施策においては、改善活動などにKPIを設定し、1年毎に管理、見直しを実施しています。今後は、R&D部門として投資額も拡大し、今の世の中にない製品の開発に取り組むとともに、つねに挑戦する意気込みと情熱を大切にし、研究開発方針である「化学は世のため、人のため。」の実現を目指していきます。



取締役 技術統括・研究開発部担当
堀 道弘

サステナビリティの取り組み

公正で誠実な企業活動を通じて「持続可能な社会の実現」と「企業価値向上」の両立を図り、企業としての社会的責任を果たしていきます。

■サステナビリティ基本方針

サステナビリティ基本方針（抜粋）

シーシーアイグループは、企業理念に基づき、すべてのステークホルダーと責任ある対話を行い、公正で誠実な企業活動を推進し、「持続可能な社会の実現」と「企業価値向上」の両立を目指し、社会的責任を果たします。

WEB

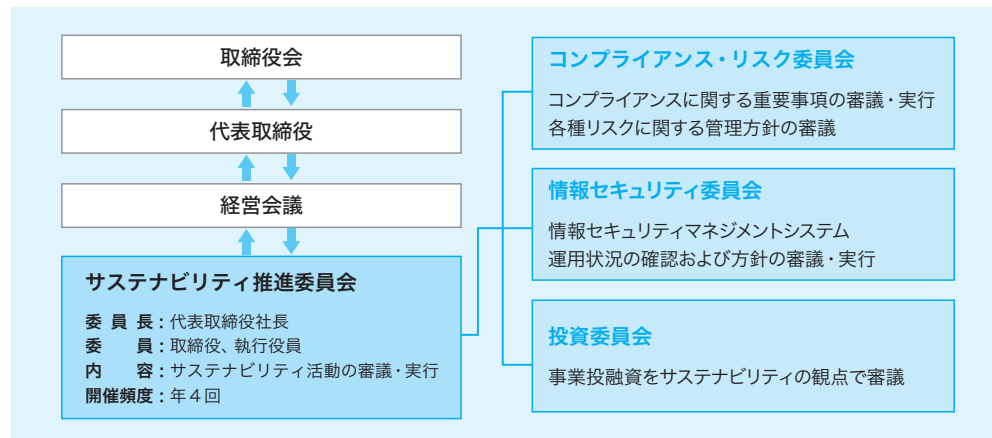
サステナビリティ基本方針（全文）

■サステナビリティ推進体制

シーシーアイグループは、サステナビリティ活動を推進するにあたって、2022年4月に代表取締役社長を最高責任者とする「サステナビリティ推進委員会」を設置し、その下部組織として「投資委員会」「コンプライアンス・リスク委員会」および「情報セキュリティ委員会」の専門委員会を設置しました。定期的に委員会を開催し、各種の活動に取り組んでいます。

委員会の開催

- サステナビリティ推進の取り組み
- グループのサステナビリティに関する活動方針策定
 - ESG、SDGs 活動のモニタリング
 - ステークホルダーへの情報発信と対話
 - 社内浸透
 - 取締役会への報告



教育の実施

- シーシーアイは、サステナビリティ経営を推進していくため、世の中の動向や当社の取り組み状況を知り、意識の向上に取り組んでいます。
- サステナビリティ基本知識研修
 - ESG 研修
 - ガバナンス研修



ガバナンス研修の様子
(2022年12月)

地域清掃活動の実施

- シーシーアイは、地域社会との共生を図るために、地域清掃活動に積極的に取り組んでいます。
- 関工業団地内清掃活動
 - 迫間川付近清掃活動

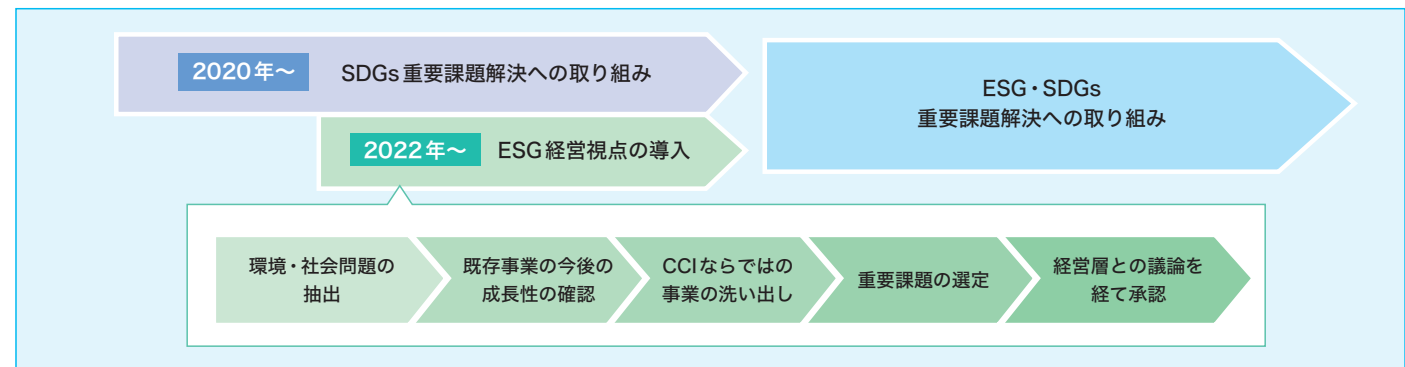


関工業団地内清掃活動の様子
(2022年6月)

■シーシーアイグループのマテリアリティ

シーシーアイは、環境・社会・経済の変化や社会的課題を的確に把握、分析しサステナビリティ活動におけるマテリアリティ（重点課題）を選定しています。これらの課題を事業活動と結び付けるため、各部門のKPIとして設定し、世界の人々に安心・安全・快適な環境を提供し続けていきます。

■ESG 優先課題特定のプロセス



■ESG 優先課題

活動領域	重要課題	優先課題(具体的な取り組み)	ESG	SDGs
事業活動	● 安心・安全・快適なモビリティ環境の提供 ● 静かな空間の創造	次世代モビリティ向け製品の開発	E	
		新たな技術を駆使した環境配慮型製品、サービスの提供	E	
	● サーキュラーエコノミーへの移行	使用済製品の回収～再資源化のビジネスモデルの構築	E	
		リサイクル可能な素材への切り替え	E	
		廃棄物の削減	E	
		脱石油由来原料製品の開発	E	
	● 健康、生活の質向上	特定化学物質、環境負荷物質の管理および使用の削減～使用ゼロ	S	
		スポーツ振興を通じて地域社会貢献活動の推進	S	—
	● CN の実現	Scope 1,2 対象 CO ₂ 排出量 2019 年度比 30% 削減	E	
		Scope 3 の算定、監視	E	—
全社活動	● 多様な働き方の実現	従業員エンゲージメントの向上	S	
		業務可視化とデジタル化による生産性向上、ペーパーレス化	S	
	● 人権に対する取り組み	人権デュー・ディリジェンス（人権 DD）の実現	S	—
		サプライチェーンにおける人権の取り組み	S	—

サステナビリティの取り組み

ESG 優先課題と実績

達成率の凡例 ◎ : 達成率 100% 以上 ○ : 達成率 80 ~ 100% △ : 達成率 80% 未満

活動領域	重要課題	優先課題（2030 年度までの具体的な取り組み）		2022 年度 KPI の達成状況	ESG
事業活動	● 安心・安全・快適なモビリティ環境の提供 	次世代モビリティ向け製品の開発	車両、航空機、船舶、住宅、ソーラーパネル等への環境対応製品の採用	△	E
	● 静かな空間の創造 	新たな技術を駆使した環境配慮型製品、サービスの提供	制振・吸音材導入による住環境の向上	△	E
			制振・吸音材導入による住環境以外の環境の向上	◎	E
			オイルバニッシュ（油脂分解微生物製剤）の拡販	△	E
	● サークュラーエコノミーへの移行 	使用済製品の回収～再資源化のビジネスモデルの構築	廃棄 LC、BF 量（国内）の 10%（1 万 kL）を回収、再資源化し活用	△	E
		リサイクル可能な素材への切り替え（廃棄物の削減）	使用材料の見直し・切り替え	○	E
			リユース事業の拡大	◎	E
			工場廃液量（2013 年度）の 50% を再資源化（削減を含む）し活用する	△	E
			プラスチック削減の取り組み	○	E
		脱石油由来原料製品の開発	量産化技術の確立	○	E
全社活動	● 健康、生活の質向上 	特定化学物質、環境負荷物質の管理および使用の削減～使用ゼロ	工程等の見直しによる特定化学物質・環境負荷物質の使用ゼロ	◎	E
			管理体制の構築により有害物質使用ゼロ	○	S
	● 健康、生活の質向上	スポーツ振興等を通じて地域社会貢献活動の推進	文化・芸術・スポーツ活動への協賛	○	S
	● CN の実現 	Scope 1,2 対象 CO ₂ 排出量 2030 年度に 2019 年度比 30% 削減	CO ₂ 削減エネルギー対策プロジェクト活動	◎	E
		Scope 3 の算定、監視	グローバルの Scope 3 算定を実施	○	E
	● 多様な働き方の実現 	従業員エンゲージメントの向上	エンゲージメントサーベイのスコア向上 多様性の実現 職場環境改善、制度の見直し	○	S
		業務可視化とデジタル化による生産性向上、ペーパーレス化	デジタル化による生産性向上、ペーパーレス化を推進	○	S
	● 人権に対する取り組み	人権 DD プロセスの構築	CSR 調達ガイドラインに則した、人権 DD プロセスの構築を実施	○	S
		サプライチェーンにおける人権の取り組み	サプライチェーンにおける人権の取り組みを推進	○	S

TOPICS ①

企業理念探究プロジェクト

シーシーアイでは、2022 年 6 月に企業理念探究プロジェクトが発足し、プロジェクトメンバー 25 人で、会社の根幹となる企業理念を探究し、これから先語り継がれる新しい価値を見つけ、存在意義を言語化し、「理念の伝道師」となって浸透を図る方針を策定しました。各タスクにおいて、経営陣へ発表をし、経営陣の意向を確認し進めていきました。言語化のプロセスにおいては、メンバーの意見をまとめるために、何度も議論を重ねました。本プロジェクトを通して、自社の歴史や現在の強み・今後の課題、今後の進むべき方向性について学び、自社理念への理解を深めるとともに、全社視点での分析やタスク設計～遂行の仕方を学びました。今後は企業理念の浸透における施策を実施していきます。

再構築された企業理念

「新しい」を共創し、世界に安心・安全・快適を提供します

Change
変革への
挑戦

Create
お客様目線で
創意工夫

Innovate
全員で
経営革新



企業理念探究プロジェクトの様子
（2023 年 1 月）

TOPICS ②

サステナビリティ推進担当ミーティング

シーシーアイでは、2022 年 4 月よりサステナビリティ経営の全社浸透を目的とした「サステナビリティ推進担当」による浸透活動を行っています。メンバーは各部署の代表者 20 名程で、月に 1 度「サステナビリティ推進担当ミーティング」を開催しています。ミーティングでは、自部署メンバーにサステナビリティについて理解、共感し、更に実践をしてもらうには、どのような浸透活動をすべきかを個人で考え、実際に行った推進活動、それにより得られた効果をメンバーで共有しています。また様々な教育に参加し、サステナビリティに関する基本知識の向上を図りました。参加型社会貢献活動も実施し、メンバーが積極的に自部署への呼びかけを行い、活動を推進してきました。今後もサステナビリティ経営の浸透活動に努めていきます。



サステナビリティ推進担当ミーティングの様子
（2023 年 3 月）

参加型社会貢献活動

- ペットボトルキャップの回収
- 衣類の回収
- 使い捨てコンタクトレンズ空ケースの回収
- トルコ・シリア大震災への支援（マッチングギフト）

ESG活動報告

ESG活動報告ハイライト



環境

環境に配慮した容器梱包への転換

シーシーアイは、環境保護を目的とし、容器梱包類のボトル変更、詰め替え、つけかえ用製品を販売することにより、プラスチックの抑制および廃棄物の削減を図っています。

2022年12月には新たにカーシャンプーの容器をボトルからパウチパックに切り替えました。

また、2020年12月以降に開発した製品は、FSC認証（責任ある木質資材を使用）を受けた容器を使用しています。今後も環境に配慮した容器梱包への転換に取り組んでいきます。

プラスチック使用量

77%削減



※プラスチック使用量は、液体重量あたりのプラスチック重量から算出した数値（当社従来品比較）

社会

人権の尊重への取り組み

シーシーアイグループは、「人権尊重」をサステナビリティ経営の最重要テーマのひとつと捉え、「シーシーアイグループ人権方針」を2021年に策定しました。この方針のもと、国内のすべての役員と従業員を対象に人権研修を実施しました。

また、国連の「ビジネスと人権に関する指導原則」の順に従い、人権デュー・ディリジェンス[※]の実施を進めています。2022年度は国内外のグループ会社および協力会社89社から自己評価調査票（SAQ）に回答いただき、リスクの調査・分析を行いました。今後は、特定した課題について、対応を進めていきます。

※人権デュー・ディリジェンス：人権への負の影響を特定、防止、軽減し、どのように救済するかという継続的なプロセス

ステークホルダーとの対話・協議
人権に関する適切な教育・研修

人権デュー・ディリジェンス

リスク特定

予防・是正

シーシーアイグループ
人権方針

情報開示

効果検証

相談窓口

WEB 人権方針



ガバナンス

情報セキュリティの強化

シーシーアイグループでは、業務のデジタル化やDXを推進する中で、サイバー攻撃や情報漏洩によるリスクの軽減に取り組んでいます。2023年に「情報セキュリティ基本方針」を策定し、方針に基づいたセキュリティ対策、継続的な改善活動の実施により更なる情報セキュリティの強化に取り組んでいます。国内では、全従業員を対象とした情報セキュリティ教育や訓練を実施し、基礎知識の向上を図りました。今後は国内だけではなく、シーシーアイグループ全体で情報セキュリティ管理の強化に努めていきます。

シーシーアイの主な取り組み

- 基幹システム（ERP）の更新
- セキュリティソリューション（EDR）の導入
- 情報セキュリティ管理体制の整備
- 情報セキュリティ教育
- 標的型攻撃メール対策訓練

WEB 情報セキュリティ基本方針



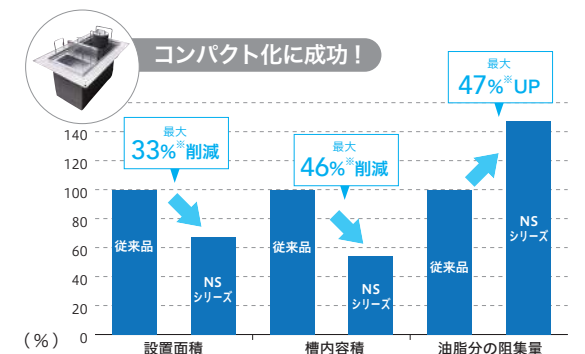
シーシーアイグループ

世界に広がるESG活動

下田エコテックにおける製品の環境貢献

グリーストラップをコンパクト化し、阻集効率大幅アップ！

下田エコテックでは、業務用の厨房に設置が義務付けられている「グリーストラップ（油脂分離阻集器）」の設計・製造・販売をしています。2022年10月に販売開始した新型グリーストラップ（NSシリーズ）は、従来品より設置面積最大33%削減・槽内容積最大46%削減というコンパクト化に成功し、材料使用量の削減を実現しました。一方で、従来品同様の槽サイズと比較して、油の阻集量を最大47%アップできました。



（％） ※従来品を100%とした時の同一のグリーストラップの能力を比較した場合（当社従来品比較）

シーシーアイ・オートモーティブ・プロダクツ（タイ）における環境貢献

ペットボトルをリサイクルし、CO₂削減

シーシーアイ・オートモーティブ・プロダクツ（タイ）では、工業団地の運営会社であるWHA Group社様と石油化学メーカー PTT Global Chemical Public Company Limited社様の活動に賛同し、2022年5月より、従業員からペットボトルを回収し寄付しています。寄付したペットボトルは、ポリエステル繊維に再生され、カバン等に生まれ変わります。廃棄物削減によるCO₂削減およびサーキュラーエコノミーの実現を目指し、引き続きこの活動を続けていきます。



WHAから寄付実績報告受領の様子
（2023年1月）

環境 Environment

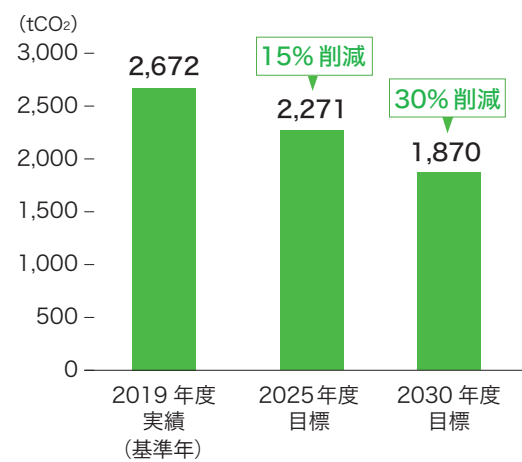
シーシーアイグループは、「2050年カーボンニュートラル」に向けて、温室効果ガスの削減、環境に配慮した製品の提供やシーシーアイグループならではの技術を活かし、地球環境の保護活動に積極的に取り組んでいます。

気候変動への取り組み

温室効果ガスの削減

シーシーアイは温室効果ガス排出量削減の取り組みとして省エネルギー活動や再生可能エネルギーの利用を推進しています。Scope1,2における自社CO₂排出量を2030年度までに2019年度比で30%削減するという中期目標を設定しています。活動を促進するためプロジェクトを発足し、生産活動における排出量削減のためアクションプランを設定し、排出量削減に取り組んでいます。また、2022年度はグループ会社においてもCO₂排出量の算定を行いました。シーシーアイ・マニュファクチャリング・イリノイ(米国)では、コンサルタントとともに活動を進めています。今後はシーシーアイグループ全体で取り組んでいます。

■シーシーアイのCO₂排出量(Scope1, 2)



環境マネジメント

環境マネジメントシステム

シーシーアイグループは、全従業員が共通の認識を持って環境対策に取り組むべく、ISO14001に基づく環境マネジメントシステムを導入し、環境への取り組みについて計画し、実施・レビューを行い、継続的な改善を進めています。認証未取得の生産拠点においては、認証の取得に努めています。



ISO14001
認証取得

6拠点

(2023年3月時点)

化学物質管理体制

化学物質の管理体制の構築

シーシーアイは、化学物質の審査および製造等の規制に関する法律、特定化学物質の環境への排出量の把握等および管理の改善の促進に関する法律、労働安全衛生法、毒物および劇物取締法等多岐にわたる法令を順守しています。また化学物質による人、環境への悪影響を未然に防ぐため、各部門と協力し合い、化学物質の管理体制の構築に取り組んでいます。

サーキュラーエコノミーの実現に向けて

シーシーアイは行動規範に基づき、サーキュラーエコノミーの実現に向けて活動していきます。生産時に発生する廃棄物の削減を図るとともに、リサイクル資源を有効活用し新たな資源投入を抑えた製品生産を推進していきます。また、自社製品の再資源化と活用に向けて取り組んでいます。

廃棄物の抑制

〈作業工程見直しによる原材料使用量の削減〉

産業タイヤ事業部では、作業工程の見直しにより、原材料の使用量を削減しました。引き続き廃棄物削減に取り組んでいます。



原材料使用量

5.6%削減

(2021年度比)

〈洗浄水の削減、再利用〉

カーケミカル事業本部では、工場内タンクの洗浄水の削減、再利用に取り組んでいます。今後はシーシーアイとして水使用量の削減目標を設定し、継続的な水資源の確保を通じて、持続可能な社会に貢献していきます。



洗浄水削減量

18%削減

(2019年度比)

〈シーシーアイグループにおける廃棄物の削減〉

シーシーアイグループの中国2工場においても、洗浄水の削減に取り組んでいます。また、ドラム缶で購入していた原料をタンクローリーに変更することで廃棄するドラムの削減や検査用サンプル量を適正化し廃棄量の削減にも取り組んでいます。今後も、環境に配慮した製造体制の構築を進めていきます。

製品の環境貢献

シーシーアイは、今まで培ってきた技術を活用し、環境に配慮した製品の開発に取り組んでいます。

環境配慮型製品の開発

〈制振材の開発〉

制振材「ダイボルギー®※」シリーズは、高分子材料に特殊な添加剤を混ぜ合わせ、分散させる当社独自の技術を使用することで、音や振動、衝撃のエネルギーを吸収し、気になる騒音をカットします。制振材だけでなく、形状を問わず使用ができる制振塗料等、騒音の特性に合わせた対処方法で静かで快適な空間を提供します。

※ダイボルギーとは、ダイボール(双極子)とエネルギーを組み合わせた造語



ダイボルギー吸音フォーム

製品のリユース

TOPIC

長寿命ウレタンタイヤ「ウルトランス」巻き直し

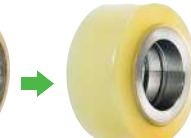
長寿命ウレタンタイヤ「ウルトランス」は、巻き直しに対応しています。巻き直しとはウレタン車輪のホイール部分を再利用し、ウレタンを新しく貼り替えて車輪の機能を復活させる技術です。車輪を丸ごと交換せずに済むため、製造と廃棄にかかるコストの削減となり環境課題の解決にも貢献します。更に、耐摩耗に優れた製品や、高耐久で長く使える製品の開発により、廃棄物を減らし資源の使用削減を目指していきます。



巻き直しの実績
2021年度 3,636個 → 2022年度 3,882個



before



after

7%増

〈油脂分解微生物製剤の拡販〉

油脂分解微生物製剤「オイルバニッシュ」は、食品工場などの排水中に含まれる油脂を強力に分解し油脂廃棄量を大幅に削減します。また、排水中のn-Hex(ノルマルヘキサン抽出物質含有量)を大幅に削減し、油脂の腐敗などによる悪臭を低減し環境保全にもつながります。2018年から販売を開始し、食品工場で導入され、その効果が実証されています。今後も、更なる販売促進により、廃棄物の削減に貢献していきます。



オイルバニッシュ

社会 Social

シーシーアイグループは行動規範に基づき、安全を最優先した行動、お客様の満足度の向上に努めていきます。また、地域社会と積極的に交流を行い、事業を活かした活動や社会の課題に応える活動を通して、持続的な社会貢献を目指していきます。

品質

品質保証への取り組み

シーシーアイグループは製品の安全品質を支えるため、品質マネジメントシステム（ISO9001）の認証を取得し継続的な改善を推進しています。お客様からのクレームに関しては、お客様の安全を第一として迅速かつ適切に対応しています。また、品質管理の標準化のため、グローバルで共通の基幹システムの導入を進めています。これにより生産工程管理を見える化し、不具合の早期発見、早期解決、再発防止のための適切な対策を講じています。今後もグループ全体で更なる高品質なモノづくりに取り組んでいきます。

■品質マネジメントシステム外部認証（2023年3月時点）

ISO9001 認証	7 拠点
IATF16949 認証	4 拠点

品質教育

シーシーアイは定期的に全従業員への品質教育を実施しています。また、製造部門の品質意識・生産性向上を目的に、コンサルタントによる品質教育も行っています。これからも継続的な教育を行い、従業員の品質意識を高めていきます。



品質教育
受講率

100%

（2022年度）

お客様とともに

顧客満足度向上への取り組み

シーシーアイは、顧客満足度の向上を図るために、日常の活動を通して直接頂戴するお客様の声、定期的に行っている「お客様満足度調査」でのアンケートのご回答や、顧客窓口にご寄せられるお客様の声を真摯に受け止め、その貴重なご意見を各部門の改善活動へつなげています。また顧客窓口担当者を対象に電話応対マニュアルを整備し、電話応対スキル教育を実施しています。今後も、お問い合わせに対して、より一層のサービス向上に努めて参ります。

取引先様とともに

CSR 調達の取り組み

シーシーアイは従来の品質・性能・価格・納入条件を重視した調達活動から自然・労働環境・人権等といったCSR要素も重要視した調達活動に向けて取引先様（サプライヤー）とともに取り組んでいます。シーシーアイは事業の持続性に影響を及ぼす可能性のあるリスクを低減することを目的にCSR調達ガイドラインを制定し、取引先様にご理解していただいた上で、サプライチェーン全体に展開しています。また、その状況を確認するため、CSRガイドラインの順守状況や紛争鉱物調査等のアンケート調査（SAQ）を実施し、取引先様とともに事業の持続性を確保しています。

労働安全衛生への取り組み

シーシーアイは労働災害リスクの低減・管理のため、労働安全衛生マネジメントシステム（ISO45001）を全拠点に構築し、安全・防災標準を策定しました。また重傷につながるリスクを軽減するために、適切な作業手順の整備、保護具着用の徹底等の対策を行っています。今後は、グループ全体での安全基準の制定、従業員の安全意識の向上を目的とした継続的な教育を実施し、労働災害リスクの低減に努めていきます。



工場内安全巡回の様子（2023年3月）



労働災害*
発生状況

*休業災害以上

0件

（2022年度）

TOPIC

シーシーアイ・マニファクチャリング・ドイツにおける取り組み～1人作業時の非常通報装置導入～

1人で作業をしている従業員が、事故や病気で転倒・転落した場合等に、自らボタンを押すまたはその動きを検知し、自動で緊急通報する装置を2022年11月に導入しました。1人作業時に発生した緊急事態に素早く対応することにより、安心して働ける職場づくりに取り組んでいます。



非常通報装置

社員とともに

人材育成

シーシーアイは企業理念に基づき、教育制度を充実させ人材育成に取り組んでいます。新入社員研修をはじめとした階層別研修や外部講師によるスキルアップ研修、ビジネス英会話研修等を実施しています。また、従業員が業務に関する資格を取得することを奨励するため資格取得報奨金給付制度を定めています。

■研修一覧

階層	階層別 研修	テーマ別 研修	部門別 研修	自己啓発
管理職	新任部長研修 新任グループマネージャー研修	サステナビリティ 人権 行動規範 コンプライアンス 安全衛生 環境・品質 情報セキュリティ 避難訓練 ハラスメント LGBTQ※ メンタルヘルス 5S 安全運転 救命講習	各部門で 実施	社外セミナー 社内勉強会 ビジネス英会話研 eラーニング 資格取得報奨金 給付制度
中堅社員	新任リーダー研修 昇格時研修			
若手 新入社員	3年目研修 新入社員研修			
内定者	内定者研修（入社前）			

※LGBTQ：性的マイノリティの総称

働きやすい職場づくり

シーシーアイは働きやすい職場環境をつくることにより、すべての従業員が仕事と生活の調和を図り、個人の能力を最大限に活かせるよう目指しています。2020年度には「岐阜県ワーク・ライフ・バランス推進エクセレント企業」に認定、2021年度には「関市女性が働きやすい職場認定」を取得しました。シーシーアイホールディングスでは2022年度に「くるみんな認定」を取得しました。



〈多様な働き方とテレワークの導入〉

シーシーアイはスーパーフレックスタイム制や副業・兼業制度を導入し、その人に合った働き方ができるようにすることでワーク・ライフ・バランスの向上を図りました。2020年度にはテレワークの導入、2022年度には更なるシステムのクラウド化を実施し、テレワークが可能となる職種を広げました。

〈育児と仕事の両立〉

シーシーアイは、子育てをする従業員に対し、法定以上の育児休業制度や短時間勤務制度を導入しています。2022年度には育児目的休暇を子が3歳の年度末まで取得期間を延長し、男性でも育児に参加しやすい体制を構築しました。



育児休業
取得率

※育児目的休暇も含む

男性

50%

女性

100%

（2022年度）

ダイバーシティ&インクルージョン

シーシーアイは、多様な人材が互いの価値観を認め合い、尊重し合い、個人の能力が発揮できる職場を目指し、定年年齢を60歳から65歳へ延長する等の様々な取り組みを行っています。

〈LGBTQへの取り組み〉

シーシーアイは、LGBTQを正しく理解するために全従業員を対象に外部講師による研修を実施し、2022年度からアライを募り、活動を開始しました。レインボーバッジを配付し、アライの見える化を推進しています。これらの取り組みが評価され、2022年11月にPRIDE指標（LGBTQへの取り組みの評価指標）でブロンズ認定されました。



65人

（2023年3月時点）

生産性の向上

シーシーアイは各部門における業務システムの統合やデータベースの一元化などにより、業務の標準化やデジタル化を推進し、会社全体における生産性の更なる向上に取り組んでいます。2019年度よりRPA業務自動化ロボットを導入し、受発注システム等の自動化を進めています。また2018年度より工場のスマートファクトリー化を進め、製造工程を可視化し品質向上や機器のデジタル化、自動化を進めています。



業務デジタル化等
による労働時間の削減

1,072h削減

（2022年度 社内推算した推定値）

社会貢献活動

研究助成プログラムの実施

シーシーアイは新規事業の実現につながる新しい価値を若手研究者の方とともに生み出すことを目指し、そのために必要な技術を確立する研究、およびその基礎となる科学技術開発に対して助成を行っています。近年では研究テーマを特定せずに、幅広い分野で助成を行っています。

採用テーマ
(名古屋大学
岐阜大学)

7件 (2022年度)

地域貢献

シーシーアイはスポーツ振興を通じた地域貢献や地元選手、未来を担う学生の活動を支援、応援しています。

〈高橋尚子杯ぎふ清流ハーフマラソン〉

本大会では毎回、従業員よりランナーが出演しています。来場者の皆さんとのコミュニケーションを大切に、スポーツを通じた地域貢献を行っています。



高橋尚子杯ぎふ清流ハーフマラソン2022
(2022年4月24開催)

〈シーシーアイカップ〉

2020年度より岐阜県サッカー協会4種(小学生チーム)に協賛し、2022年10月には「第18回岐阜県選抜大会8人制U-11・12」2023年1月には「第3回岐阜県U-9」を開催しました。これからも子どもたちの心身の健やかな育成を応援していきます。



第3回岐阜県U-9サッカー大会
(2023年1月15日開催)

〈関ジモト大学〉

2021年度より、岐阜県関市のNPO法人を通じて、地元の高校生を対象とした教育支援活動を毎年行っています。2022年8月にオンラインでシーシーアイのSDGsの取り組みについて説明を行いました。これからも未来を担う学生の教育支援に貢献していきます。

〈海外子会社の活動〉

シーシーアイ・マニュファクチャリング・イリノイ(米国)は、「Team Honda Week(s) of Service[※]」に、2017年から毎年参加しています。2022年は従業員から保存食料品を募り、地元のフードバンタリー(食材を無料配布する活動)へ寄付しました。

※北米全土のHonda様従業員、ディーラー、サプライヤーの有志が各地域に適したボランティア活動を実施。

■主な協賛先一覧(2022年度)

●モータースポーツへの支援

- ・ホンダモビリティランド
- ・ホンダモビリティランドレーシングスクール

●地域スポーツへの支援

- ・プロバスケット「岐阜スーパース」
- ・プロサッカー「FC岐阜」
- ・モトクロス土屋元希選手
- ・ふどうの森トレイルラン
- ・eモータースポーツ大会 中部地区

●学生への支援

- ・自動車技術会学生フォーミュラー
- ・岐阜大学フォーミュラー
- ・岐阜大学iGEM(学生向けの世界合成生物学大会)

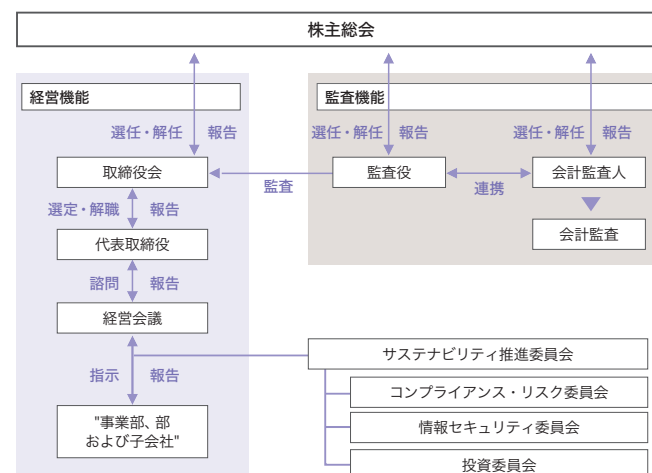
ガバナンス Governance

シーシーアイグループは、経営の透明性を高めながら監督機能の強化と意思決定の迅速化を図り、コンプライアンスを確保することをコーポレート・ガバナンス上の最重要課題と位置づけています。コーポレート・ガバナンス体制の強化・充実を推進することにより、企業価値の向上を目指しています。

コーポレート・ガバナンス

シーシーアイは従業員をはじめ、株主様・お客様・取引先様・地域社会などすべてのステークホルダーを意識した、透明・公正かつ迅速・果敢な意思決定ができるよう、下図のとおりコーポレート・ガバナンス体制を構築しています。最高経営意思決定機関である取締役会は、法令に定められた事項や経営に関わる重要事項の決定、取締役の監視機関として位置づけています。一方で公正・独立の立場から社外監査役を含めた、監査役が取締役の職務執行、経営の監査を行う体制を構築しています。

■コーポレート・ガバナンス体制図



TOPIC

製品提供を通してモータースポーツ業界に貢献
TOYOTA GAZOO Racing

TOYOTA GAZOO Racing World Rally Teamとは2017年からパートナーシップを締結し、ブレーキフルードおよびエンジンクーラントを、ヤリスWRCに提供しています。2022年11月に愛知県、岐阜県で開催された「ラリージャパン」では地元企業として大会を盛り上げることができました。今後もWRC、鈴鹿サーキット、AUTOBACS RACING TEAM AGURIへの協賛を通じてモータースポーツの活性化を願い、貢献していきます。



© TOYOTA GAZOO Racing World Rally Team 2023

コンプライアンス

法規制対応

シーシーアイは法規制の新設・改正の対応について、漏れなく正しく行うことを目的に、顧問弁護士と関連部門で定例ミーティングを毎月開催し、新設・改正情報、当社の対応や進捗状況を共有し、管理する体制を構築しました。今後も管理体制の強化に努めていきます。



重大な
法令違反

0件

(2022年度)

内部通報

シーシーアイグループは不正行為の未然防止、早期発見および是正を図り、コンプライアンス経営を推進することを目的として、内部通報システムを導入しています。従業員からの相談事や内部通報を受け付ける社外・社内の窓口を設置し、コンプライアンス事務局が適切に処理します。



通報件数
重大な法令違反や不正
行為に関わる通報

0件

(2022年度)

コンプライアンス研修・教育

シーシーアイグループでは、正しい知識の定着、意識の醸成を図るため、行動規範研修やハラスメント研修等を継続して実施しています。シーシーアイでは、2022年度から全従業員を対象にコンプライアンスブックを用いて、毎月教育を行っています。今後も従業員の更なる意識の向上、浸透を図っていきます。



コンプライアンス研修受講風景
(2023年3月)

リスクマネジメント

事業継続計画

シーシーアイは、緊急時対応計画(ERP)・危機管理計画(CMP)・事業継続計画(BCP)マニュアルを策定し、事業継続管理(BCM)体制を構築しました。毎年、定期的な見直し・訓練の実施を行うことで有事の際、誰もが動ける備えができるよう取り組んでいます。



総合防災訓練の様子(2022年12月)



安否確認
システム訓練
回答率

98%

(2023年3月)